

クリーンエアシャフト 1000

CLEAN AIRSHAFT 1000

粉塵発生が少ない クリーンな AIREX エアシャフト



特長

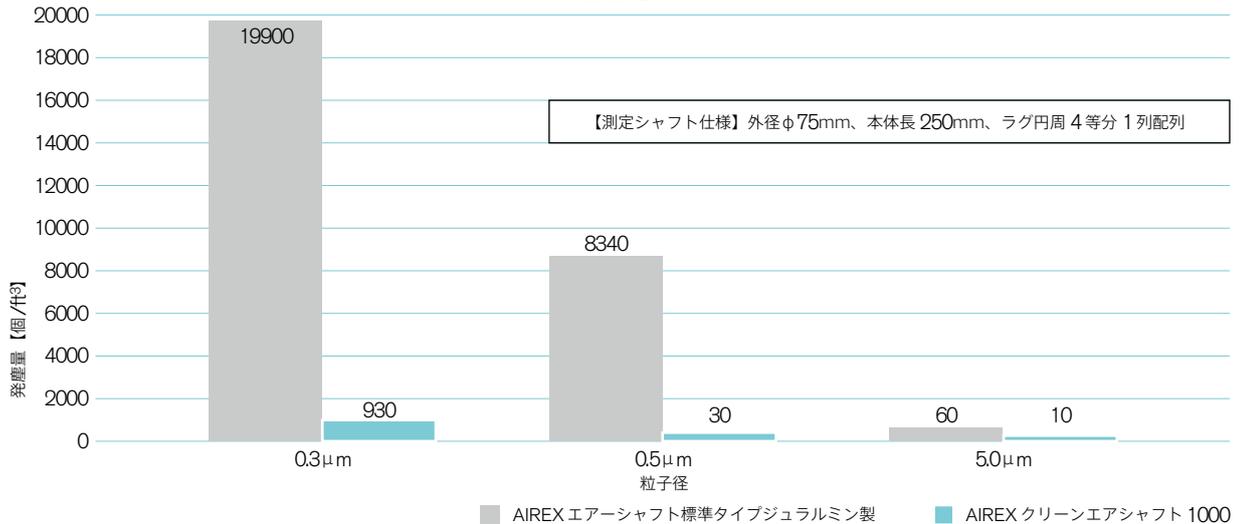
- クラス 1000 (※ 1) のクリーンルーム内で使用できます。
- AIREX エアシャフト標準タイプ (※ 2) 全てに対応できます。
- コアの接触による発塵を少なくするため、ヘッドキャップ及びラグは樹脂部品になっています。
- クラス 1000 のクリーンルーム内でラグを拡縮させ、粒子径 0.5 μm 以上の発塵量は 100 個/ft³ 以下を確認しています。

※ 1 アメリカ連邦規格 Fed.Std. 209D (1 ft³ 中に含まれる 0.5 μm 以上の微粒子数 個/ft³)
クラス 1000 とは、0.5 μm 以上の微粒子が空間中に 1000 個以下であることを示します。

※ 2 エアシャフトシリーズの両持支持タイプ・片持支持タイプでシャフト外径 2 インチ～ 6 インチに対応します。

ラグ拡縮時の 発塵比較

発塵量比較 (72時間連続運転中にサンプリングしたデータの最大発塵量を比較)



○ AIREX エアシャフト標準タイプのジュラルミン製では、ラグが拡縮するさい、内部の部品が擦れ合い大量に発塵します。

○ AIREX クリーンエアシャフト 1000 は粉塵発生箇所に特殊対策を施しました。このため、部品磨耗が抑制され、粒子径 0.3 μm、0.5 μm の発塵量が激減しています。

○ AIREX シャフト単体で測定した発塵性は可能です。コアの材質や AIREX シャフトの運転状況により、発塵量は大きく影響されます。別途検討が必要です。

発塵測定方法

- (1) AIREX クリーンエアシャフト 1000 の部品は洗浄しクリーンルーム内で組立。
- (2) クリーンルーム外から AIREX シャフトに配管し、圧縮空気の注入排気を行い、ラグの拡縮を 3 秒サイクル 72 時間連続運転。
- (3) パーティクルカウンター (米国 PMS 社製 HandiLaz-Mini) の吸い込み口を、エアシャフトの下方 100 mm の位置に設置し、1 時間ごとに発塵量を測定。



株式会社 三橋製作所

- 本社 〒 615-0082 京都市右京区山ノ内赤山町 1 番地
Tel (075)316-3300 <営業> Fax (075)313-7595
- 東京営業所 〒 111-0043 東京都台東区駒形 2-4-11 ヨシクニ駒形ビル 9 階
Tel (03)3847-9751 Fax (03)3847-9753
- 九州営業所 〒 816-0906 福岡県大野城市 1-5-3 オフィスパレア中 II D 棟 3 号室
Tel (092)476-3800 Fax (092)476-3801
- HEAD OFFICE
1 Sekizan-cho Yamanouchi Ukyo-ku, Kyoto 615-0082, Japan
Tel (075)316-3300 Fax (075)313-7595

MITSUHASHI CORPORATION

手にかわる“手”を。